

第52回「議員と語ろかい」報告書

(地域テーマ型：No.1)

開催日	令和 8年 7月 29日 19時00分 ～ 20時30分		
開催場所	隼人公民館		
団体名	地域テーマ型（個人）隼人地区	参加人員	17人 (男 8人：女 9人)
出席議員	【総務環境】久保 史睦、稲留 誠也、【文教厚生】竹下 智行、植山 太介 【産業建設】山口 仁美、宮内 博、香山 二郎		
役割分担	班 長（竹下 智行）副班長（植山 太介）記録係（香山 二郎）		
テーマ及び具体的な内容	隼人の未来予想図 ～子どもたちのために。まちの足りないもの、必要なもの～		

	◆は参加者の発言　◇は議員の発言
意見交換での主な話題等	◇下記の2つのグループに分かれて意見交換を実施する。 ・まちづくりグループ：参加者8名　竹下議員、植山議員、香山議員 ・子育てグループ：参加者9名　久保議員、稲留議員、山口議員、宮内議員 【まちづくりグループ】 ◆ 海・隼人港・資源活用に関する意見 - 一次産業・ブランド： - 農家には有機栽培など意識が高い人もいるが、漁業者はそういう人が少ない。 - 特産品は多いが、ブランド化が不十分。 - 子どもが一次産業を魅力的な仕事と認識しにくい現状。 - 課題： - 良い資源は「ある程度そろっている」が、「これ」という核となるもの・ステージが無い。 - 海・山・川の資源はあるが中途半端で地元の誇りにつながっていない。 - 隼人にクルーズ船寄港の計画もあるが、単なる通過点になる懸念がある。 - 提案・活動： - 隼人だけでなく、始良、垂水など広域での連携が必要。 - 国からの予算（例：地球未来交付金　20億円規模）を活用した港整備などを提案し、勉強会を開催。しかし、行政側の反応が鈍く、実現に至っていない。 - 民間主導での柔軟な対応が必要だが、公的制度の硬直性が障害となっているとの認識。 ◆ 小浜地区（漁港・地域運営） - 現状： - 以前は多くの住民が小浜港（永浜港）周辺に関わり、多数の漁師がいたが、現在漁師は1人のみ。 - 港の管理を漁協任せの構図があり、地元住民の主体的関与が不足している。 - 将来、ゴミ問題や駐車場問題、来訪者のマナーなどの課題が顕在化する懸念。 - 行政との関係： - 港の問題は林務水産課への申し入れを検討中だが、まだ協議の場が整っていない。

意見交換での主な話題等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	- 経験と課題認識： - 北九州・東京での経験から、若者を入れたいと言いつつ受け入れが進まない組織文化も問題視。 - 小浜公民館の体制改革を行い、役員の入れ替え等による変革を実施した。 - 夏祭り・秋祭りの在り方を変更しないといけないとの危機感がある。 - 「国分と隼人だけ良ければ良い」という姿勢でなく、霧島市全体の視点が必要。 - 人口・政策提案： - 人口が少ないからこそ、様々な施設や事業の誘致を検討すべきとの考え。 - 農業とオーガニック： - 有機JAS認証に伴う負担（検査・費用）が小規模農家には重い。 - 認証に頼らず、無農薬・低農薬で実際に取り組んでいる農家を評価する仕組みも必要。 - オーガニック野菜は価格が高く売れるのは都市部が中心で、地方では価格転嫁が難しい。 - 質より量が求められる子育て世代には、高価なオーガニックの浸透が難しい側面がある。 ◆ 隼人駅前通り・祭り・商店街 - 駅前通り会： - これまでの主な事業は夏祭り。今後は秋祭りに切り替える。（暑さ対策） - 課題： - 霧島市内の祭りの中で「花火が上がらない祭り」という特徴。花火打ち上げの実現を望む声があるが、過去の試みは実現せず。 - 駅前通りには空き店舗や、人が住んでいて活用しにくい建物が多く、商店街の活性化が難しい。 ◆ まちの魅力・図書館・児童館 - 経過： - 以前、市主催の「未来カフェ」で、市の未来像について議論に参加。 - 当時から「デートする場所がない」「若者が集まる場がない」と指摘されていたが、10年以上経っても状況が変わっていないとの認識。 - 他都市との比較： - 熊本市などでは図書館・児童館が新設・整備され、子どもが無料で利用できる施設が充実。霧島市では同様の施設が不足。 熊本「本の森」のような、図書館と児童館が一体化した施設の整備を強く希望。

	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
意見交換での主な話題等	- 現状の課題： - 霧島市内の図書館は「本が並んでいるだけ」で、乳幼児連れの利用に心理的負担が大きい。 - 子どもが自由に遊び、親子がリラックスできる公共施設が少ない。 ◆ 嘉例川駅・隼人駅・公共交通・観光動線 - 経歴： - 元市役所職員として地域政策課で地域公共交通を担当（JR肥薩線の利用促進など）。 - 嘉例川駅・鹿児島空港： - インバウンド増加に対し、鹿児島空港から霧島市内への二次交通が不十分。 - 空港から嘉例川駅へのバスはあるが利便性が低い。 - 提案： - 市の施策として、空港～嘉例川駅間の二次アクセスを補助し、嘉例川駅を観光の起点に。 - 嘉例川駅から肥薩線で隼人駅へ、隼人駅から日豊本線で鹿児島市内へ向かうルートを整備し、途中の景観・体験を楽しむ観光動線を構築。 - 隼人駅周辺を魅力的なまちとし、途中下車で滞在してもらうことで地域経済に波及。 - 体験談： - 小浜海水浴場での「魚のつかみ取り」イベントが子どもの記憶に残る良い体験だったことを紹介し、子どもがふるさとに愛着を持つイベントの重要性を強調。 ◆ 移住者の視点・観光案内 - 移住経緯： - 「子育てするなら鹿児島で」と県内を回り、最終的に移住先として霧島市を選択したが、「期待と違った部分がある」との率直な感想。 - 課題： - 外部から見た時、期待した資源が「ない」か、あっても「アクセス手段・情報が無い」ため、活用しづらい。 - 鹿児島空港の到着ロビーに観光案内所はあるが、目立たず機能が弱い。バスチケット購入など基本的な動線がわかりにくい。 - 宮崎県など他県の空港は観光案内が上手く、鹿児島は出遅れている認識。

	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言 - 子ども施設： - 小学生が安心して遊べる屋内施設が霧島市にはほぼない。 宮崎の有料施設「遊びパーク」などを例に、体験型施設の必要性を指摘。 - 霧島市にもAZ（ショッピングセンター）はあるが、高齢者向けのコンセプトが強く、ファミリー層向け機能を強化すべきとの意見。 - 隼人駅再開発： - 再開発されつつあるが、踏切のさらなる渋滞問題が懸念される。 霧島市全体としての構想（青写真）が見えない。 - 提案： - 隼人駅を観光拠点とし、焼酎の試飲・販売を行う「焼酎博物館」的機能を設ける案はどうか。新潟駅の日本酒試飲施設を参考事例として紹介。 - 霧島市が鹿児島・南九州全体の観光拠点となれる潜在力があるが、PR・構想が不足しているとの指摘。 - 今回の意見を踏まえ、第2弾の議論の場を設けることへの期待。 ◆ 祭り・観光客と地元産品の接点 - 資源： - 鹿児島神宮の初午祭には年間約10万人の観光客が訪れる。 - 提案： - 初午祭等の機会に、地元特産品・店舗の紹介・販売を行い、観光客と地元産品を結びつける場を整備すべき。 - キッチンカーなどの出店はあるものの、出店者に十分な利益が出ておらず、改善が必要。 - 観光客が少額でも地元産品を購入できる仕組み（例：100円程度で短時間体験：甲冑で散策など）を設けることにより、地元経済への還元が期待できる。 ◆ 関係人口・地域共生 - 現状認識： - 人口減少・子どもの減少は不可避であり、地域の持続性が課題。 - 関係人口： - 「関係人口」の創出が重要であり、地域住民が地域に誇りと愛着を持ち、外部との交流を促す仕組みが必要。
--	--

	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言 - 提案： - 子ども・高齢者・障害の有無に関わらず誰でも利用できる「プラットフォーム的な場所」を整備。 - 無料で利用できるスペースに、情報を拾い上げて企画・実現につなげるプロデューサー的役割の人材を配置。 - 企業CSR（社会貢献）と地域活動、住民を結び、Win-Winの関係を構築。 - 行政への要望： - 市役所に福祉職（社会福祉士など専門職）を配置し、個別支援だけでなく家庭・地域全体を支える集団的支援の体制構築を求める。 ◇霧島市には良いものがたくさんあるが、それらを生かす方法を追求する必要がある、課題として認識している。 移動手段・観光ルート整備などをどう進めるか、市としても少しずつ良くしようとしているが中途半端である。霧島市の7地区（旧1市6町）はそれぞれ特色がありそれをどうまとめるか考えるべき。また、改善するためには歳入を増やすことも必要である。 【子育てグループ】 テーマ①：学校作業療法士 ・参加者（作業療法士）より、障害の有無にかかわらず学校支援に入る「学校作業療法」の取り組み事例が資料をもとに紹介された ◆発達障害・グレーゾーンの児童生徒が増加しており、教員の負担が増大しているようだ。新聞報道でも、教員自身が精神疾患により休職するケースが全国的に増加している。 ◆既存の保育所等訪問支援制度は、療育を受けている児童のみを対象としており、一般の児童は対象外である。 ◆岐阜県飛騨市の事例として、校内に「学校作業療法室」を設置し、診断の有無を問わず全ての児童を対象に、3段階（全体環境調整・個別配慮・専門的個別対応）で支援する取組がある。霧島市では、どのような認識か知りたい。
--	--

	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
意見交換での主な話題等	◇以前から山口議員が注目しており、飛騨市の取組がスタートする前から交流を持っている。令和8年度は、文教厚生常任委員会が飛騨市に行政視察に行っている。 ◇飛騨市では人材育成及び取り組みの構築に約5年を要し、小中学生1,500人規模でようやく体制が構築されてきており、まだ試行錯誤しながら取り組んでいる状況だ。 ◆まず1校をモデル校として導入し、実績を積み重ねながら他校へ展開していけないのか。 ◇霧島市の場合、ノウハウの問題はもちろんだが、担い手となる人材の問題が大きいという執行部との共通認識だ。霧島市は飛騨市より規模が大きいため、単純な横展開は難しく、霧島にあった形での導入や準備を検討していかなければならない。 ◆導入にあたっては、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士等の専門職間の連携と人材育成が必要だと思う。 ◆保護者や一般には、まだ「学校作業療法士」という仕組み自体が十分に知られていない。認知度向上が必要ではないか。 ◇アメリカでは学校ごとに作業療法士が配置され、教員が教育に専念できる体制がある。 ◇過去に学童保育（児童クラブ）が、市民の声を起点として活動をしていき、行政が後から制度化した経緯がある。同様のアプローチが参考になる。 テーマ②：子ども会・ジュニアリーダー育成 ◆隼人地区の取組として、中高生の「ジュニアリーダー」が小学生を見守る仕組みを重ねている。子どもたち自身が活動の企画・資金調達・実行を担っており、地域や市からの活動費（年間30～40万円規模）を得て運営している。子どもたちが自ら校長先生と交渉するなど、主体的な取り組みが見られている。また、障害のある子どもも自然にグループ活動に参加している。

意見交換での主な話題等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆地域によって子ども会活動に差があり、中山間地域では特に子どもの社会体験活動が衰退している
	◆大人の過干渉で子ども自身が考え行動する機会が減っているのではないか。
	◇自治会単位での子ども会活動が解散している場合、単位を超えて参加できる取り組みが有効だ。
	◇合併から20年が経過しており、地域間の子ども会の解散状況を背景にした子どもの体験活動格差の是正に向け、行政の関与が必要ではないか。